



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

学校教育におけるジェンダー平等戦略－教育環境と 教育内容に焦点をあてて－

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-10-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 直井, 道子, 福富, 護, 村松, 泰子, 大竹, 美登利, 高橋, 道子, 中澤, 智恵, 松川, 誠一, 眞鍋, 倫子, 木村, 育恵, 苫米地, 伸 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/90507

はじめに

男女を問わず、すべての人が尊重され、可能性を最大限に発揮できる社会をつくることは、現代社会の重要な目標である。それは一人ひとりの人間にとっても、社会全体にとっても、理念的にも現実的な課題解決のためにも求められている。

こうしたジェンダー平等な社会を形成していく上で、教育のもつ意味は重要である。なかでも学校教育は、新しい社会を推進していく力となりうるが、逆に変化を押しとどめる働きをする場合もある。「教育とジェンダー」という問題領域に取り組んできた実践者や研究者は、この両面の実態や可能性を追究し、学校教育をジェンダー平等の方向に向けて改善していくための具体的な方策を探ってきた。

私たちは、教員養成系大学である東京学芸大学に所属する者として、数年前に、ジェンダーの視点から教員養成の実態を検証し、問題を探り、改善のための具体的な方策につなげることを目的に「教員養成とジェンダー研究会」をつくった。そして、2002～04年度に文部科学省科学研究費補助金を得て、全国の教員養成系大学の教員と学生を対象とする調査を実施し、他大学・他学部に比べて女子学生の多い教員養成系大学においても、教員・学生ともまだまだ旧来のジェンダー意識が維持されており、変容の契機は少ないことを明らかにした。

この研究を踏まえ、次に取り組んだのが今回の研究「学校教育におけるジェンダー平等戦略—教育環境と教育内容に焦点をあてて—」である。小・中学校の教育実践の場で、教師はどのような態度で児童・生徒に向き合っているのか、子どもの側はそれをどのように受けとめているのかについて、地域差の検証も含めて量的に把握することをねらいとした。また、具体的な実践をしている事例についての研究などを行った。本報告書は、この一連の研究成果をまとめたものである。これらの成果は今後さらに分析を行い、さまざまな形で社会に還元していく予定である。

最後になったが、本研究を実施するにあたり調査やヒアリングにご協力くださった小・中学校の教員や児童・生徒の皆さんには、貴重なデータを提供していただいたことに感謝したい。それらの学校調査の便宜をはかっていただいた福島県・東京都国分寺市・神奈川県相模原市の関係機関にもお礼申し上げる。そして、本研究を公募研究として採択し、研究費を助成くださった福島県男女共生センターに、厚くお礼申し上げたい。

2007年12月

東京学芸大学

教員養成とジェンダー研究会